Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-11-25

中国語を母語とする日本語学習者による日中同形語使用の問題点 ： 多様なコーパスデータを用いた調査

陳, 迪

(Citation)
Learner Corpus Studies in Asia and the World,6:147-168

(Issue Date)
2024-03-20

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/0100487720

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100487720

中国語を母語とする日本語学習者による日中同形語使用の問題点

—多様なコーパスデータを用いた調査—

陳　迪（神戸大学大学院生）

Problems with the Use of Sino-Japanese Homographs in the Output of L1 Chinese Learners of Japanese

—An Investigation Using Diverse Corpus Data—

CHEN, Di (Kobe University, Graduate Student)

概要

本研究では、学習者コーパス・母語話者コーパス・話し言葉コーパス・書き言葉コーパスを組み合わせ、中国語母語とする日本語学習者と日本語母語話者の日中同形同義語使用を、(1)使用頻度、(2)品詞パタン、(3)コロケーションパタンの観点から比較し、CLJ の同形語使用の問題点を解明した上で、中国語からの L1 干渉の実態を明らかにした。

キーワード

日中同形語、コーパス、L1 干渉

1. はじめに

日中両言語において、多くの同形語が存在している。このことは、中国語を母語とする日本語学習者（L1 Chinese learners of Japanese、以下 CLJ）の日本語習得を促進している一方、課題も存在する。CLJ と日本語母語話者（Japanese native speaker、以下 JNS）の同形語使用を観察すると、CLJ には、(1)一部の語を過剰、または過少使用する、(2)同じ語を異なる品詞として使用する（例：体力が回復する／？体力が回復になる）、(3)同じ語を異なる共起環境で使用する（例：景気が回復する／？動作が回復する）などの傾向が認められる。これらの点をふまえると、母語における同形語の知識があることで「L1 干渉」、つまり「否定的な転移」が生じ、そのことが、L2 における過剰・過少使用の原因になっているのではないかと考えられる。

以上の仮説を検証するために、さまざまな研究を行ってきたが、先行研究において、母語話者コーパス・学習者コーパス・書き言葉コーパス・話し言葉コーパスを組み合わせた調査は極めて少ない。そこで本研究では、多元的コーパスセットを組み合わせ、CLJ と JNS の同形語使用パタン、および L1 における同形語の使用パタンを比較し、CLJ の同形語使用の問題点と、中国語からの L1 干渉の実態を明らかにすることを目指す。

2. 先行研究

日中同形語についての研究が数多く行なわれてきたが、ここでは、同形語の分類と数に関する量的研究・同形語の意味用法に関する量的研究・学習者の同形語使用に関する研究を概観したい。

まず、文化庁(1978)は、日本語の漢語と対応する中国語を、その関係性に基づき、4 種類(S:Same、O:Overlap、D:Different、N:Nothing)に分類している。3 種類の初級・中級の日本語教科書(計 10 冊)より抽出した 2,000 語に基づく計量的調査の結果、日中両言語において意味が共通する同義の語彙(S 語)は全体の約 67%で、類義の語彙(O 語)は約 4%、両者あわせて全体の約 71%になるという。陳(2002)は、文化庁(1978)・国立国語研究所(1982)・国立国語研究所(1984)・『日本語能力試験出題基準』(国際交流基金、1994)という 4 冊の資料より抽出した 4,600 語と中国大陸の中国語において対応する 2 字漢語の辞書的意味実態を調べた結果、S 語は全体の約 54.5%、O 語は全体の 14.9%を占めることがわかった。松下・陳・王・陳(2020)は、文化庁(1978)と三浦(1984)に基づき、日中同形語の意味対応パタンを表 1 に示したように 6 種類に分類し、「日中対照漢字語データベース」(Version 2.0)を開発した。また、日本語の語彙において、50%が漢語で、漢語の 70%が日中同形語であること、同形語のうち、82%が同形同義であり、18%が同形類義語や同形異義語であることが明かになった。

表 1 松下・陳・王・陳(2020)の日中同形語の意味対応パタン

意味対応パタン	例
同形同義(日＝中)日本語と中国語の基本義が同じ	社会
同形異義(日≠中)日本語と中国語の基本義が異なる	大丈夫
同形類義(日＞中) 日本語のほうが意味が広い(日本語だけに独自義がある)	時間
同形類義(日＜中) 中国語のほうが意味が広い(中国語だけに独自義がある)	会
同形類義(日＞＜中)共通義があるが、日中両語ともに独自義もある	是非
非同形(φ)中国語には当該語が存在しない	病院

次に、日中同形語の意味用法に関する研究は、主として使用頻度、文法機能、品詞性、共起語などについて行われてきた。何(2016)は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)と「国家语委现代汉语平衡语料库」での使用頻度が 50 回以上の同形同義新漢語 101 語を対象とし、CLJ が日中同形同義語の学習における母語からの影響について調査した。各語について、日本語における使用頻度比と中国語における使用頻度比を調査した結果、(1)両言語における使用頻度比の間には有意差がない場合、CLJ は母語から正の影響を受けること、(2)日本語における使用頻度が中国語よりも多い場合、CLJ は過小使用の可能性があること、(3)日本語における使用頻度が中国語よりも少ない場合、CLJ は過剰使用の可能性があること、の 3 点が示唆された。

馮(2019)は、『综合日语第一册』を考察対象とし、そこに含まれるナ形容詞「主要」を例に取り

上げ、BCCWJ、「现代汉语语料库」(BCC コーパス)、「中日対訳コーパス」を用いて調査した結果、(1)“主要”(zhǔyào)のほうが「主要」より表せる意味範疇が広いこと、(2)「主要」が最も多く使用されている機能は連体修飾であるのに対し、“主要”が最も多く使用されている機能は連用修飾であること、(3)両語と共起しやすい語には差がある、(4)「主要」は基本的に「な」が付くのに対し、“主要”はしばしば“的”を省略すること、が明かになった。

許(2014)は、『新明解』と『现代汉语词典(第五版)』から日中同形語を抽出し、辞書の記述に基づき、意味、品詞の分類を行った。二字音読み語について品詞性調査を行った結果、(1)品詞性が対応する同形語(53.64%)、(2)品詞性にずれがある同形語(34.45%)、(3)品詞性が完全に異なる同形語(11.91%)の 3 つのグループに分類した。

なお、CLJ の日中同形語の使用について、河住(2005)は、CLJ が産出した漢字語彙の誤用実態を調査し、CLJ の日本語漢語使用については、中国語語彙からの影響と日本語漢語に対する認識不足によって多くの問題が生じうることを明らかにした。とくに、中国語語彙をそのまま日本語語彙として使った誤用、類義の日中同形語の混用や日本語における類義漢語の混用による誤用、漢語の品詞性に対する認識不足による誤用が多いことが確認された。五味他(2006)は日中同形語の品詞のズレによる誤用について分析し、日本語でサ変動詞として使われる「低下する」のような漢語が、CLJ の作文の中で「低下になる」のような形容詞や名詞として誤用される例が多いことが確認された。また、このような誤用は、「変化」の意味を含む同形語において特に顕著であることが明らかになった。劉(2021)は、日中同形語における S 語、O 語、D 語を含む文の自然性判断テストを実施し、CLJ と非漢字圏の学習者の正答率を比較した。その結果、S 語の場合は CLJ の正答率が非漢字圏の学習者より圧倒的に高いのに対し、O 語と D 語の場合は CLJ と非漢字圏の学習者の間で顕著な差は見られなかった。これは、CLJ が日中同形語を習得する際、同形同義語の習得には正の転移、同形類義語や同形異義語には負の転移が働く可能性があることを示唆している。

過去の研究は日中同形語について様々な観点から考察してきたが、(1)学習者の過剰・過少使用語における同形語占有率についての調査は少ない、(2)品詞に関する調査は辞書ベースのものが多く、頻度調査は少ない、(3)同義語については、用法も同じであるとみなされ、コロケーション環境の違いを対象にした調査は少ないなどの課題が存在する。

3. リサーチデザインと手法

3.1 研究目的と RQ

すでに述べたように、本研究では、多元的コーパスセットを用い、CLJ と JNS の同形語使用パタンを比較したうえで、CLJ の日本語漢語使用における問題の一部が L1 知識に起因するのではないかという仮説を探る目的のもと、CLJ の産出で最も顕著に過剰使用される同形語と、最も顕著に過少使用される同形語をサンプル語として、中国語におけるそれらの対応語の用法調査を行う。

比較にあたっては、頻度・品詞別用法・コロケーションの 3 観点を立てる。これらの各々につき、まず、I-JAS における JNS と CLJ の差異を確認する。その後、一般日本語コーパス(L1 日本語

コーパス)および一般中国語コーパス(L1 中国語コーパス)で各語の使用状況の差異を確認する。これにより、I-JAS で観察される CLJ/JNS の差異が、それぞれの母語である日本語・中国語の差異に起因するものであるかどうかが確認できることになる。この目的に沿って、以下の研究設問を設定する。

RQ1 CLJ が JNS に対して過剰・過少に使用する同形語にはどのようなものがあるか。

RQ2 過剰・過少使用される同形語について、CLJ は JNS と同様の頻度で使用しているか。また、L1 日本語と L1 中国語の差は影響しているか。

RQ3 過剰・過少使用される同形語について、CLJ は JNS と同様の品詞パタンで使用しているか。また、L1 日本語と L1 中国語の差は影響しているか。

RQ4 過剰・過少使用される同形語について、CLJ は JNS と同様のコロケーションパタンで使用しているか。また、L1 日本語と L1 中国語の差は影響しているか。

3.2 データ

上記で述べたように、本研究では、I-JAS で CLJ と JNS の差を確認した後、日本語・中国語の書き言葉・話し言葉コーパスを調査することで、CLJ/JNS 差の原因を検討する。本節では、各コーパスについて概観する。

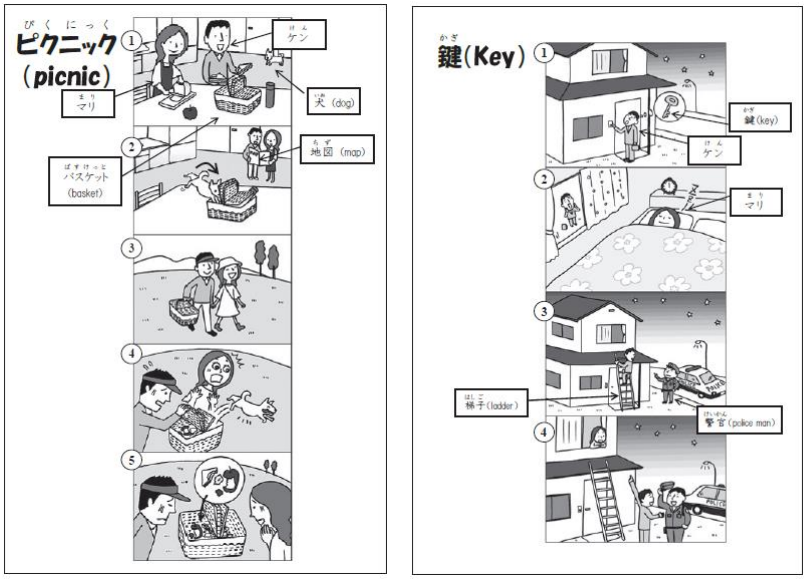
3.2.1 学習者コーパス

本研究では、CLJ と JNS の同形語使用パタンを比較する際に、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(I-JAS)を使用する。なお、I-JAS で行わせている 12 種のタスクのうち、話し言葉データとして、発話データ量が最も多く(総語数は 3,168,198 語)、自然会話や日常会話に最も接近する「対話」というタスクのデータを絞って、書き言葉データとして、学習者と母語話者の同じテーマの作文における語彙使用を比較できるストーリーライティング(SW)のデータを絞って分析を行う。

対話タスクは学習者と日本語母語話者である調査実施者が自然な会話を 30 分程度で行うものであり、発話データの主要なタスクである。当該タスクは学習者間のデータを比較するため、統制された 7 種のトピック(全 15 の話題)を設定し、それに沿って会話をできる限り自然に進めるようにした。

SW タスクでは、「ピクニック」に関する 5 コマ漫画(SW1)と「鍵」に関する 4 コマ漫画(SW2)を見た後、指示された冒頭文(SW1:「朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。」;SW2:「ケンはうちの鍵を持っていませんでした。」)に続け、漫画に沿って作文する(図 1)。なお、この漫画は先に行ったストーリーテリングと同じ資料であるため、参加者はあらかじめストーリーの内容を十分に理解した上で作文できると考えられる。

図 1 I-JAS のストーリーライティングタスクで用いる漫画（迫田ほか、2020）



3.2.2 日本語母語話者コーパス

本研究では、日本語母語話者の話し言葉データとして、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ）を用い、話し言葉データとして、「日本語日常会話コーパス」（Corpus of Everyday Japanese Conversation: CEJC）を用いる。

CEJC は国立国語研究所が 2016 年から構築している大規模話し言葉コーパスであり、様々なタイプの日本語日常会話およそ 200 時間をバランスよく収録したもので、2022 年 3 月に映像を含めたデータ全体が登録者に公開された。CEJC の会話データは、形式別に「雑談」「用談・相談」「会議・会合」「授業・レッスン」の 4 ジャンルに区分されている。本研究ではすべてのジャンルデータを利用する。

BCCWJ は国立国語研究所が中心となって構築された日本国内で初めての大規模均衡コーパスであり、2011 年に公開され、データ量はおよそ 1 億 450 万語である。BCCWJ は「新聞」「雑誌」「書籍」「白書」「教科書」など、13 種の大ジャンルに区分されており、ジャンルによってはさらに詳細な下位区分がある。本研究では、BCCWJ の 13 ジャンルのうち、体言止めの多用など、特殊な品詞使用がなされている可能性のある「韻文」を除く 12 ジャンルのデータを利用する。

3.2.3 中国語母語話者コーパス

本研究では、中国語母語話者の話し言葉データとして、The Spoken Chinese Corpus of L1-L1（TSCC）を用い、書き言葉データとして、Lancaster Corpus of Mandarin Chinese（LCMC）を用いる。

TSCC は、Li（2021）が博士論文の研究の一環として独自に作成したコーパスである。中国語母

語話者による自然な中国語の対話が収集されている。データ量はおよそ 22 万語である。当該コーパスは中国語の標準語（普通話）の対話データを収集するため、中国北部出身、かつ大学以上の教育を受けた成人 22 人を対象とし、非構造化インタビューを採用してデータを収集した。データの利用について、本コーパスはオンライン検索システムが提供されていないが、GitHub 上で収集したデータを公開している。

LCMC（McEnery & Xiao 2004）は、Richard Xiao が作成した現代中国語均衡コーパスである。該当コーパスは FLOB（Freiburg-LOB Corpus of British English）の構築モデルに従って作成され、データ量はおよそ 100 万語である。当該コーパスは中国語の書き言葉を想定母集団にし、1989 年から 1993 年まで出版された中国大陸の出版物に限ることを決めた。その後、15 種のカテゴリーごとに現実母集団を確定し、無作為抽出法によってサンプリングを決めた。データの利用について、LCMC は、CQPweb at Lancaster（Corpus Query Processor）というオンラインのシステムで無償に利用することができる。

3.3 手法

RQ1（過剰・過少使用漢語における同形語）では、まず、CLJ が JNS に対して特徴的に使用している漢語、すなわち有意に過剰、または過少に使用する漢語を抽出する。特徴度の指標は、対数尤度比統計量（log-likelihood ratio：LLR）を使用することとし、有意水準 5%に相当する統計量 3.84 を満たすものを、特徴的に過剰使用または過少使用されている語とみなす。なお、本研究は探索的手法に基づくものであることから、特徴語の可能性があるものをより広く集めて観察できるよう、多重比較補正はあえて行わないこととする。特徴語の抽出と統計量の計算は、多言語対応のコーパスコンコーダンサである AntConc（3.5.9）の Keyword List 機能を使用する。次に、日中対照漢字語データベース（松下ほか、2020）を利用し、抽出された CLJ の過剰・過少使用漢語における同形語および非同形語を判断したうえで、各々の占有率を計算する。なお、データベールで収録されていない語については、中国語母語話者である筆者より判断する。

RQ2（使用頻度の差）では、まず、I-JAS における JNS と CLJ の書き言葉・話し言葉に使用されるサンプル語の頻度をそれぞれ調査する。次に、L1 日本語コーパスにおけるサンプル語の使用頻度と、L1 中国語コーパスにおけるそれに対応する同形語の使用頻度をそれぞれ調査する。すべての頻度情報について 100 万語あたりの調整頻度（PMW）に換算して比較する。

RQ3（品詞パタンの差）では、まず、I-JAS における JNS と CLJ の書き言葉・話し言葉に使用されるサンプル語の品詞用法の種類とその使用率を調査する。次に、L1 日本語コーパスにおけるサンプル語の各品詞用法の使用率と、L1 中国語コーパスにおけるそれらと対応する同形語の各品詞用法の使用率をそれぞれ調査する。各語の品詞用法を判断する際に、以下のような基準を設定する。

表 2 品詞用法の判断基準

L1	品詞	基準

日	名詞	動詞の主語や目的語として機能する。 格助詞付加（格助詞「が・を・に…」の後続）
	動詞	述語として機能する。 「スル」付加（～する（敬語形を含む）、～出来る）
中	名詞	・動詞の主語や目的語として機能する。なお、数量詞（“一个（苹果）”“一种（方法）”）の付加・形容詞や他の名詞の修飾（“正式准备”“一切准备”）などを補足基準とした。 ・“进行・有・作・加以・给以・受到・予以”などのような「准谓宾动词」の目的語として機能する。 ・複合語の場合，複合語の統語機能および当該語が複合語内での統語機能によって品詞用法を判断する。例えば、“有心理准备”の場合、名詞“心理”は“准备”を修飾し、“心理准备”は動詞“有”の目的語として機能するため、名詞“心理”は“准备”を修飾するため、ここの“准备”は名詞と判断する。
	動詞	・述語として機能し、“着・了・过”などの助詞が接続できる。 ・“不”を付加して否定形になれる。

RQ4（コロケーションパタンの差）では、まず、書き言葉・話し言葉を問わず、I-JAS における JNS と CLJ の使用するサンプル語のコロケーションパタンをまとめ、各パタンにおける共起語を抽出する。次に、I-JAS から抽出したコロケーションパタンをもとに、L1 日本語コーパスにおけるサンプル語と共起する語を抽出する。さらに、L1 中国語コーパスにおける対応する中国語のコロケーションパタンおよび共起語を抽出し、それらを日本語と比較する。

4. 結果と考察

4.1 RQ1 過剰・過少使用漢語における同形語

まず、CLJ が JNS に対して過剰・過少に使用する語における同形語を抽出して、その占有率を調査したところ、図 2 の結果を得た。

図 2 過剰・過少使用語における日中同形語占有率

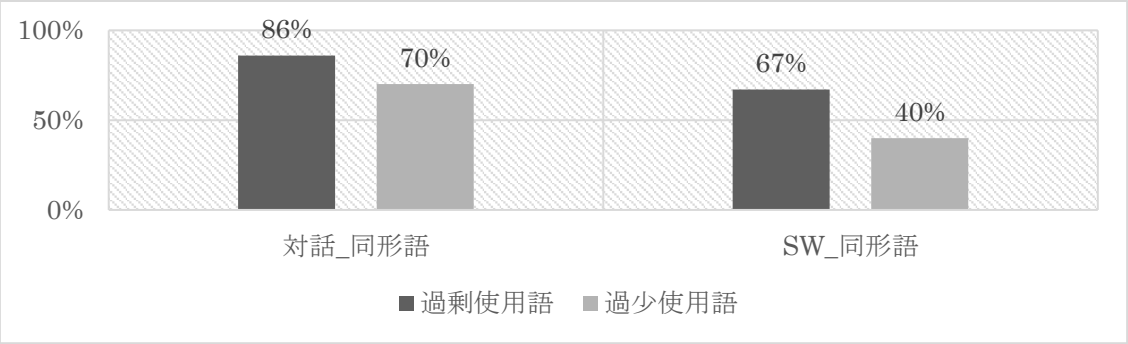


図 2 から見ると、2 点を指摘したい。まず、1 点目は、CLJ の過剰使用語における同形語の占有率は、過少使用語よりも多いということである。学習者にとって、L1 知識が生かせる語を優先的に選択するため、結果としてそれらは過剰使用されるのに対し、L1 に存在しない語については選択優先度が下がり、結果として出現頻度が下がっているものと考えられる。

次に、2 点目は、対話における同形語の占有率は SW よりも高いということである。その原因について考えると、発話をする場合、音声情報の即時処理が求められ、学習者の脳内の L2 メンタルレキシコンから単語を検索して取り出す際に、L1 と同形の語へのアクセスがより容易であるのではないかと考えられる。

以下、CLJ の過剰・過少に使用する語においてどのような同形語が存在するかについて具体的に見てみよう。なお、括弧には各タイプの比率を示す。

表 3 過剰・過少使用語における日中同形語

意味対応タイプ	過剰使用（LLR 順）	過少使用（LLR 順）
対話		
同形同義（日＝中）	交流、準備、参加、留学、感謝、自習、恋愛、緊張、入学、翻訳、体験、管理、交換、挑戦、選択、感動、完成、接触、理解（79%）	発言、矛盾、購入、骨折、尊敬、生活、成人、検索、赴任、集中、乾燥、演奏、解説、予約、活動、一致、優先、克服、再現、分散、反省、和解、対抗、引退、感激、独立、率先、申告、自立、融合、達成、開通、麻酔、経験、移動、運動（76%）
同形異義（日≠中）	勉強、喧嘩（8%）	工夫、待機、没頭、看病、葛藤（10%）
同形類義（日＞中）	旅行、注意（8%）	割愛、調整、衝突、逆転（8%）
同形類義（日＜中）		設計（2%）
同形類義（日＞＜中）	了解（4%）	表現、上京（4%）
SW		
同形同義（日＝中）	準備、出発、解決、誤解（100%）	確認、理解（100%）

表 3 からわかるように、過剰使用語であれ過少使用語であれ、同形同義語の数が最も多い。多

くの先行研究（陳，2003；李，2006；劉，2021）では、CLJ にとって同形同義語が最も習得しやすいことを示唆したが、今回の結果はこれを支持していない。その原因について考えると、先行研究で調査された同形同義語には「特徴」や「歴史」などの名詞が含まれており、動詞や形状詞と比べて、品詞用法がより単純であるためである。今回の調査対象はサ変動詞として使用できる漢語動名詞に絞っており、その品詞用法が複雑であるため、L1 中国語において意味が同じであっても、具体的な用法には大きなずれが存在する可能性があるのではないかと考えられる。

そこで、以下の RQ では、上記の過剰・過少に使用する同形同義語の中で、SW で過剰使用度が 1 位になる「準備」と、同じく過少使用度が 1 位になる「確認」の 2 語をサンプルとして取り上げ、中国語における両語の対応語となる“准备”（zhǔnbèi）および“确认”（quèrèn）の使用頻度・品詞パタン・コロケーションの 3 観点から具体的に調査を行うこととした。

4.2 RQ2 使用頻度の差

まず、I-JAS と L1 コーパスを用いて「準備／准备」の使用頻度をそれぞれ調査した結果、図 3 を得た。

図 3 「準備／准备」の使用頻度（PMW 調整済み）

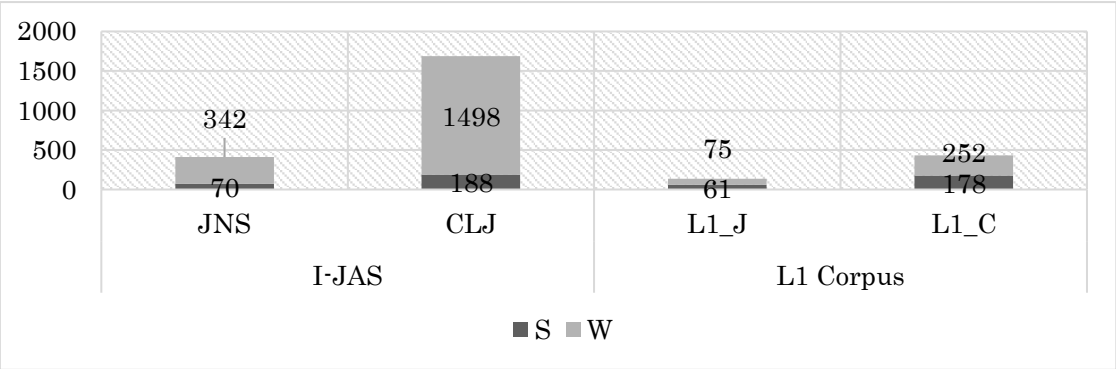


図 3 からわかるように、I-JAS に見られる JNS と CLJ の関係は、L1 における日本語（L1_J）と中国語（L1_C）の関係を反映したものと考えられる。具体的に 2 点が確認された。まず、1 点目は、書き言葉と話し言葉を区別しない場合、「準備／准备」の使用頻度について、I-JAS では CLJ＞JNS の関係となり、L1 コーパスでは L1_C＞L1_J の関係となることである。カイ二乗検定を行った結果、いずれも有意差があった（I-JAS：χ^2=28.11, *df*=1, *p*<.001, OR=3.32；L1 コーパス：χ^2=392.26, *df*=1, *p*<.001, OR=0.32）。これにより、CLJ が「準備」を JNS に対して過剰に使用することは、L1 における“准备”の使用頻度に影響されるのではないかと考えられる。何（2016）は日本語における同形語の使用頻度が中国語よりも少ない場合、CLJ は過剰使用の可能性があることを示唆したが、今回の結果はこれを裏付けると言えるだろう。

次に、2 点目は、話し言葉だけに注目すると、I-JAS では CLJ_S＞JNS_S の関係となり、L1 コーパスでは L1_C＞L1_J の関係となることである。また、書き言葉においても同様の関係が観察さ

れる。カイ二乗検定を行った結果、いずれも有意差があった（I-JAS（S）：χ^2＝14.01, *df*=1, *p*<.001, OR＝2.69；L1 コーパス（S）：χ^2＝15.38, *df*=1, *p*<.001, OR＝0.43；I-JAS（W）：χ^2＝8.87, *df*=1, *p*＝.003, OR＝4.38；L1 コーパス（W）：χ^2＝401.91, *df*=1, *p*<.001, OR＝0.30）。これにより、「準備」の使用頻度に見られる L1 干渉は、当該語の使用環境に依存しないことが示唆される。つまり、話し言葉と書き言葉の両方において、CLJ は L1 干渉を受けて「準備」を過剰に使用することが確認された。

次に、I-JAS と L1 コーパスを用いて「確認／确认」の使用頻度をそれぞれ調査した結果、図 4 を得た。

図 4 「確認／确认」の使用頻度（PMW 調整済み）

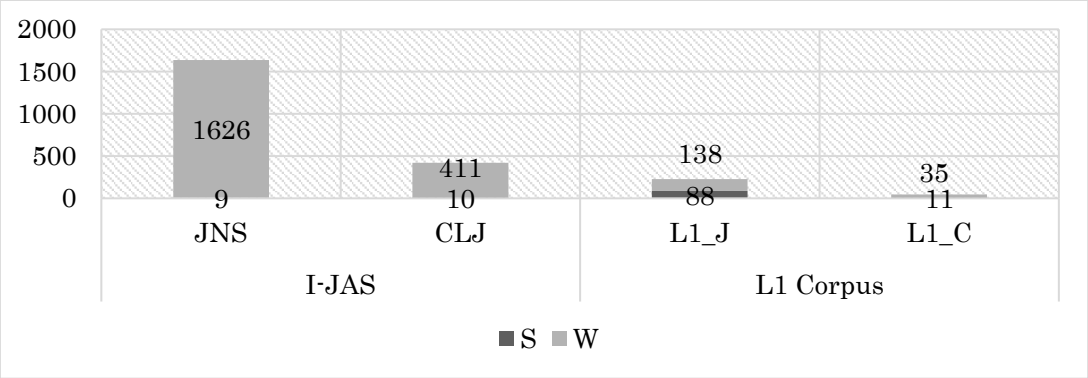


図 4 からわかるように、「準備」と同様に、I-JAS に見られる JNS と CLJ の関係は、L1 における L1_J と L1_C の関係を反映したものと考えられる。ここでも 2 点が確認された。まず、1 点目は、書き言葉と話し言葉を区別しない場合、「確認／确认」の使用頻度について、I-JAS では CLJ＜JNS の関係となり、L1 コーパスでは L1_C＜L1_J の関係となることである。カイ二乗検定を行った結果、いずれも有意差があった（I-JAS：χ^2＝7.47, *df*=1, *p*＝.006, OR=2.34；L1 コーパス：χ^2＝96.73, *df*=1, *p*<.001, OR=0.22）。これにより、CLJ が「確認」を JNS に対して過少に使用することは、L1 における“确认”の使用頻度に影響されるかのではないかと考えられる。何（2016）は日本語における同形語の使用頻度が中国語よりも多い場合、CLJ は過少使用の可能性があることを示唆したが、今回の結果はこれを裏付けると言えるだろう。

次に、2 点目は、話し言葉だけに注目すると、I-JAS では CLJ_S＞JNS_S の関係となるが、L1 コーパスでは L1_C＜L1_J の関係となることである。一方、書き言葉の場合には、I-JAS における関係が L1 コーパスにおける関係と一致している。ただし、カイ二乗検定を行った結果、CLJ_S と JNS_S の間で有意差がなかったが（I-JAS（S）：χ^2＝0.00, *df*=1, *p*＝1, ns, OR＝1.19）、他の群間には有意差があった（L1 コーパス（S）：χ^2＝12.33, *df*=1, *p*<.001, OR＝15.31；I-JAS（W）：χ^2＝18.07, *df*=1, *p*<.001, OR＝0.25；L1 コーパス（W）：χ^2＝76.67, *df*=1, *p*<.001, OR＝3.96）。これにより、「準備」と同じように、「確認」の使用頻度に見られる L1 干渉は、当該語の使用環境に依存しないことが示唆される。つまり、話し言葉と書き言葉の両方において、CLJ は L1 干渉を受けて

「確認」を過少に使用することが確認された。

以上、使用頻度の観点から CLJ の同形語使用における L1 干渉について考察してきた。その結果、日中両言語における同形語の使用頻度のズレが存在する場合、L1 干渉が生じる可能性があることが確認された。以下、同形語の品詞パタンの差について調査する。

4.3 RQ3 品詞パタンの差

まず、各コーパスデータを用いて「準備／准备」の品詞用法の使用率を調査したところ、図 5 を得た。

図 5 「準備／准备」の品詞用法

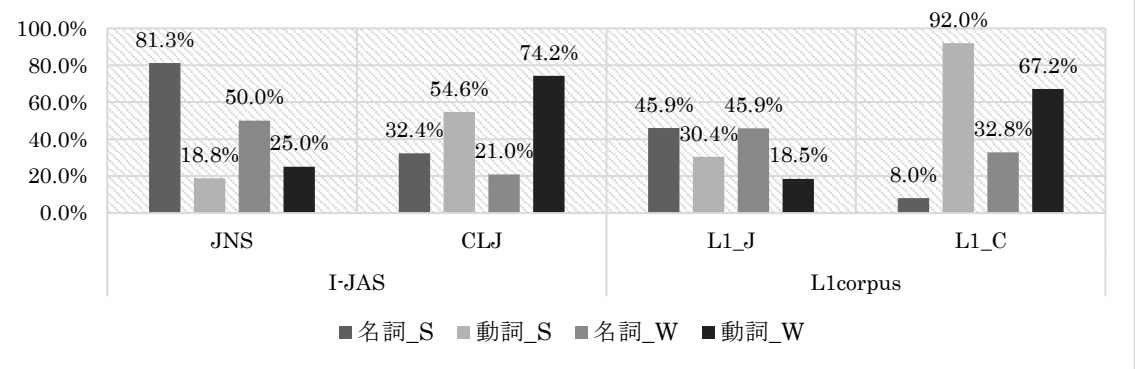


図 5 からわかるように、I-JAS に見られる JNS と CLJ の品詞使用パタンは、L1 における品詞使用パタンを反映したものと考えられる。ここでは 3 点について言及したい。1 点目は、話し言葉と書き言葉を問わず、「準備」の品詞使用パタンについて、CLJ は動詞用法を多用しているのに対し、JNS は名詞用法を多用していることである。「準備」の品詞用法について、CLJ は JNS のように使用することができなく、問題点が存在する可能性が示唆された。以下、I-JAS における「準備」に関する実用例を示す。

(1)ケンとマリはピクニックに行く準備をしていました。(JJJ35-SW1)
(2)その時に、私はピアノの準備をしていてあともう一人歌う人がいたんですけど(JJJ30-I)
(3)ピクニックの前に、ケンさんとマリさんはサンドイッチとりんごを準備しています。(CCH12-SW1)
(4)今私は公務員の試験を準備しています(CCS10-I)

上記の(1)と(2)は JNS の実例であり、(3)と(4)は CLJ の実例である。(1)と(3)はいずれも「ピクニックのために食べ物の準備」に関する描写であるが、JNS は「準備」を動詞の「する」の目的語として使用しているのに対し、CLJ は「準備」に「する」を付けて「サンドイッチとりんご」の述語として使用している。なお、(3)を中国語に翻訳すると、“在去野餐之前，小健和玛丽准备了三明治和苹果”となり、“准备”は動詞として使われている。CLJ が日本語で発話する際に「準備」をサ変用法で

使用しているのは、母語の影響を受ける可能性が示唆されている。(2)と(4)はいずれも「ある行為・活動の準備」に関する発話であるが、JNS は「準備」を名詞として使用しているのに対し、CLJ は「準備」に「する」を付けて「仕事」の述語として使用している。なお、(4)を中国語に翻訳すると、“现在我在准备公务员考试”となり、“准备”は動詞として使われている。上記の用例によると、同じの行動を表すにもかかわらず、JNS は「準備」の名詞用法を好む一方で、CLJ は「準備」のサ変動詞用法を好む傾向があることが確認された。また、CLJ のこの使用傾向は、L1 干渉を受けている可能性があると考えられる。

2 点目は、話し言葉と書き言葉を問わず、“准备”の動詞用法が名詞用法より多いのに対し、「準備」の名詞用法が動詞用法より多いということである。つまり、日中両言語において、「準備／准备」の品詞用法にはズレが存在することが明かになった。CLJ が「準備」のサ変動詞用法を好む傾向になるのは、L1 からの干渉によるものと考えられる。五味他(2006)は、日中両言語における二字漢語動名詞の品詞用法のズレが、CLJ の誤用の原因になることと指摘したが、今回の結果はこれを裏付けると考えられる。

3 点目は、話し言葉においても書き言葉においても、「準備／准备」の品詞使用パタンが一致しているということである。これにより、使用環境は「準備」の品詞使用パタンに影響を与えないことが確認された。

続いて、「確認／确认」の品詞用法の使用率を調査したところ、図 6 を得た。

図 6 「確認／确认」の品詞用法

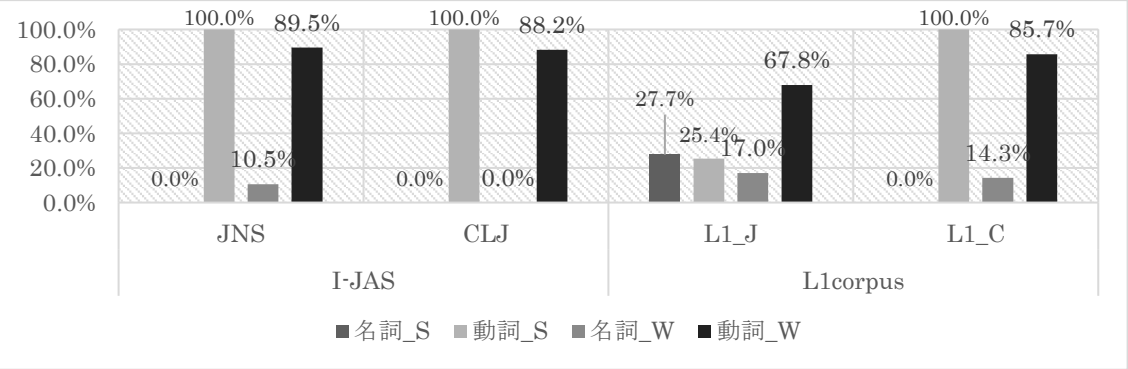


図 6 からわかるように、I-JAS に見られる JNS と CLJ の品詞使用パタンは、L1 における品詞使用パタンを反映したものと考えられる。ここでは 3 点について言及したい。1 点目は、話し言葉と書き言葉を問わず、「確認」の品詞使用パタンについて、CLJ は JNS と同じ、動詞用法を圧倒的に多用しているということである。以下、I-JAS における「確認」に関する実用例を示す。

(5)しかし、ピクニックに行く<u>場所を確認する</u>ためにケンとマリが一緒に地図を見ていると…(JJJ21-SW1)

(6)ケンさんは地図を持って、マリさんと行く<u>場所を確認しました</u>。(CCT48-SW1)

(5)と(6)では、同じコマの漫画を描写しており、JNS と CLJ はいずれも「行く場所を確認する」という表現を使用していることがわかった。なお、(6)を中国語に翻訳すると、“小健拿着地图，和玛丽一起确认了要去的地方”となり、“确认”は動詞用法であることがわかった。したがって、CLJ は日本語の「確認」を使用する際に、L1 中国語からの正の転移が生じることがあり、結果として品詞用法に関する不適切な使用が少なくなる可能性があると推測される。

2 点目は、話し言葉と書き言葉を問わず、“确认”と「確認」の品詞使用パタンが一致しており、いずれも動詞用法が名詞用法より多いということである。つまり、CLJ が「確認」を使用する際に品詞用法に関する誤用が少ないのは、L1 からの正の転移を受けているからと言えるであろう。

3 点目は、「確認」の品詞使用パタンは使用環境によって差異が生じるのに対し、“确认”の品詞使用パタンは使用環境に影響されないということである。書き言葉において、「確認」の動詞用法がより多用されている一方、話し言葉においては「確認」の名詞用法と動詞用法の使用率がほぼ同等であるが確認された。JNS が対話において「確認」の名詞用法を使用していないのは、対話タスクのテーマによる可能性があると考えられる。一方で、L1 中国語の場合、“确认”の名詞用法が話し言葉でほとんど使用されないこととわかった。このようなズレが存在するため、CLJ が話し言葉で「確認」の名詞用法を過少に使用する可能性があると推測される。

以上、品詞使用パタンの観点から CLJ の同形語使用における L1 干渉について考察してきた。日中両言語における同形同義語の品詞使用パタンにはズレが存在する場合、L1 干渉が生じる可能性がある一方、日中両言語における品詞使用パタンが一致している場合、正の影響を及ぼす可能性があることが確認された。

4.4 RQ4 コロケーションパタンの差

まず、I-JAS における JNS と CLJ が使用した「準備／準備する」のコロケーションパタン及び共起語を調査し、表 3 のようにまとめた。

表 3 I-JAS における「準備」のコロケーションパタン

語	パタン	共起語	
		JNS	CLJ
準備	～＋格助詞＋動詞	をする、が進む	をする、を終える、*をできる、を始める、が終わる、がある
	名詞＋の＋～	給食、ピアノ、仕事	試験、論文、アルバイト、メス、大賞、ピクニック、コンテスト、食べ物、N1（日本語能力試験）、会場、バーベキュー、スーツケース
	動詞の連体形＋～	寝る、ピクニックに行く	
	～＋ノ＋名詞		食べ物、時間、ため

	～＋ナ＋名詞		こと
	～＋ガ＋形容詞		ない
準備スル	～の連体形＋名詞	サンドイッチ	食べ物、後、サンドイッチ、ランチ、食事、果物、林檎
	名詞＋ヲ＋～		食べ物、ピクニック、試験、いろんなこと、ケーキ、食材、果物や飲み物、誕生日のカード、展覧会、服装、テスト、歓迎会、ご飯、サンドイッチとりんご、論文、脚本、将来の仕事、出し物、職場の仕事
	…ために＋～		ピクニックに行く、ピクニックする、日本語第八級の

表 3 からわかるように、「準備／準備スル」のコロケーションパタンについて、CLJ は JNS と同じパタンを使用することもあれば、異なるパタンを使用することもある。ここで 2 点について説明したい。

1 点目は、「準備」という動作の対象を表現する際に、JNS は「名詞＋ノ＋準備」と「動詞の連体形＋準備」の 2 つのパタンで使用するのに対し、CLJ は「名詞＋ノ＋準備」と「名詞＋ヲ＋準備スル」、「…ために＋準備スル」の 3 つのパタンで使用することである。特に注目すべきは、「名詞＋ノ＋準備」と「名詞＋ヲ＋準備スル」の 2 パタンである。JNS が後者を使用していないのは、そもそも「準備」をサ変動詞としての使用頻度が極めて低いためである。では、CLJ はこれらの 2 パタンをどう使用しているのだろうか。以下、I-JAS における CLJ の実用例を見てみよう。

(7)私はその試験の準備をしています。(CCH07-I)
(8)これまでは私は大学院の試験を準備しています、でも合格しなかった。(CCM11-I)
(9)食べ物の準備をしましたあと、この二人は地図を見て…(CCH39-SW1)
(10)そのあと、二人は食べ物を準備します。(CCM53-SW1)
(11)あー、それから、N一〔日本語能力試験 1 級〕の準備を、準備をしています、し、していました(CCH37-I)
(12)高級日本語の授業の準備をしていました、あー、その一、テキストの文章を見ました(CCH37-I)
(13)最近はん一中国の公務員のテストを準備してるので…公務員のテストを準備しているので毎日勉強しています(CCH02-I)
(14)ダンスをできる人を選んで、えーみんな一緒に出し物を準備していました(CCH02-I)

上記の用例を見ると、CLJ は「名詞＋ノ＋準備」と「名詞＋ヲ＋準備スル」の 2 パタンをうまく区別

できていない可能性があると考えられる。たとえば、(7)と(8)では動作の対象がいずれも「試験」、(9)と(10)では動作の対象がいずれも「食べ物」であるが、CLJ はこれらを異なるパタンで使用している。そのうち、(8)の用法は不自然な日本語であることがわかった。さらに、(11)～(14)から見ると、実際には 1 つのパタンしか使用しておらず((13)は不自然な日本語である)、多くの CLJ が多様なコロケーションパタンをうまく使いこなせていないことが明かになった。

2 点目は、「準備」が連体修飾語として機能する際に、JNS は「準備スルの連体形＋名詞」で使用するのに対し、CLJ は「準備＋ノ＋名詞」と「準備＋ナ＋名詞」の 2 つのパタンで使用することである。論理的に考えると、「準備」は漢語動名詞として、動詞と名詞の両面性を持つため、「準備＋ノ＋名詞」の構造と「準備スル＋名詞」の構造で連体修飾語となることができる。しかし、動名詞が名詞として連体修飾語となる場合、何らかの制約が存在する(石, 2021)。また、中国語において、動詞であれ名詞であれ、連体修飾語として機能する際にはいずれも「的」(日本語では「の」あるいは「な」と対応する)を後続して使用する。これによって、CLJ が「準備＋ノ＋名詞」と「準備＋ナ＋名詞」の 2 パタンを使用することは、L1 干渉を受けるのではないかと言えるだろう。

以下、I-JAS から抽出したコロケーションパタンをもとに、L1 日本語コーパスにおける「準備」の共起語を抽出し、その意味的特徴を表 4 のようにまとめた。なお、「…ために＋準備スル」というパタンの出現頻度が極めて低いため、すべての共起語をリストアップしたが、他のパタンにおける共起語は共起頻度順上位 10 語をリストアップした。なお、括弧内の数字は共起頻度を示す。

表 4 L1 日本語コーパスにおける共起語

語	パタン	共起語	特徴
準備	～＋格助詞＋動詞	をする(956)、を進める(254)、が出来る(209)、を整える(150)、が・の整う(132)、を始める(117)、を行う(75)、に取り掛かる(61)、に掛かる(52)、に入る(47)	何らかの行動やプロセスの開始・遂行に関連する
	名詞＋ノ＋～	ため(201)、心(128)、夕食(46)、食事(39)、明日(34)、事前(29)、出発(25)、(結婚)式(25)、旅行(25)、(研究)会(23)	特定の人間活動や、時間に関連する
	動詞連体形＋～	迎える(102)、行く(41)、言う(27)、対する(23)、出掛ける(17)、なる(15)、受け入れる(15)、出来る(11)、送る(9)、出る(9)	移動・変化・何らかの反応に関連する
	～＋ノ＋名詞	ため(123)、段階(14)、時間(13)、都合(12)、時(7)、(外貨準備の)急増	事柄の構成部分・時間の流れ・状況の変化に関連する

		(7)、一環(6)、減少(4)、遅れ(4)、こと(4)	
	～＋ナ＋名詞		
	～＋ガ＋形容詞	ない(13)、早い(3)、忙しい(1)、悪い(1)、遅い(1)、細かい(1)	物事の状態に関する評価や判断に関連する
準備スル	～連体形＋名詞	こと(39)、もの(36)、ため(16)、必要(13)、書類(5)、作業(3)、段階(3)、訳(3)、心構え(3)、時(2)	何らかの目的を達成するための必要な要素・理由・態度に関連する
	名詞＋ヲ＋～	もの(17)、こと(5)、凶器(5)、金(5)、食事(5)、仕事(4)、体制(4)、具(4)、原稿(4)、手段(4)	何らかの目的を達成するために役立つ事物・ツールに関連する
	…ために＋～	参加する、(機会を)取る、年金給付の、予備審査の、同僚の、二人の、新郎新婦の、登山の、お茶を入れる、子の、非難する、利用しやすくする、なんの	人間関係や、社会的な活動などに関連する

ここで指摘したいことは 2 点ある。1 点目は、「準備」の対象を表現する際に、「名詞＋ノ＋準備」と「動詞連体形＋準備」、「名詞＋ヲ＋準備スル」、「…ために＋準備スル」の 4 パタンが使用できることである。ただし、「名詞＋ノ＋準備」における名詞は、「夕食・食事・明日・事前・出発・結婚式・旅行・研究会」などのような人間活動を表す名詞が多いのに対し、「名詞＋ヲ＋準備スル」における名詞も人間活動を表す名詞が多いが、「もの・凶器・お金・具・原稿」などのような具体的な事物やツールを表す名詞もある。

2 点目は、「準備」が名詞を修飾する際に、「準備スルの連体形＋名詞」と「準備＋ノ＋名詞」の 2 パタンで使用することができるが、「準備＋ナ＋名詞」というパタンが存在しないことである。ただし、「準備＋ノ＋名詞」における名詞は、「時間・都合・時」などのような時間に関わる名詞や、「段階・一環」などのような進行中の事柄の構成部分を表す名詞、「急増・減少・遅れ」などのような状態の変化に関わる名詞が多い。一方で、「準備スルの連体形＋名詞」における名詞は、「必要・段階・訳・心構え」などのような抽象的な理由や態度に関わる名詞以外、「もの・書類」など、具体的な事物も多い。

続いて、L1 中国語コーパスにおける「准备」のコロケーションパタンおよび共起語を抽出し、その意味的特徴を表 5 のようにまとめた。なお、中国語のデータ量が少なく、「動詞＋准备(名)」、「名詞＋准备(名)」、「准备(名)＋名詞」の 3 パタン以外では共起語がほぼ 1 回しか出現されなかった。そのため、ここでは上記の 3 パタンのみが共起頻度を示す。

表 5　L1 中国語コーパスにおける共起語

語	パタン	共起語	特徴

准备(名)	動詞+～	做(19), 作(9), 有(9), 无(9), 进行(2)	物事の存在や、行動・プロセスの遂行に関連する
	名詞＋～	思想(11), 心理(6), 精神(1)	人間の内面的な世界に関連する
	～＋名詞	工作(11), 阶段(5)	進行中の事象や活動に関連する
	動詞句+的+～	睡觉, 收复失地, 赔本, 应付突然情况, 搬家, 抗敌	日常生活や、特定の人間活動に関連する
	名詞句+的+～	心理素质上, 道德素质上, 身体素质上	人間の資質や能力に関連する
准备(動)	～+動詞句	走, 动身, 跟你联系, 注射, 绕个圈, 泡茶待客, 自己来打开, 针对老刘的话发表自己的意见, 把他们送到家, 离开这儿	特定の人間活動に関連する
	～+名詞	资料, 见面礼, 纸和笔, 东西, 午餐, 被褥, 电视机, 住房	何らかの目的を達成するための具体的な事物

ここで指摘したいことは 3 点ある。

1 点目は、中国語と比べて、日本語の場合、名詞としての「準備」は目的語として使用する際に、存在を表す「ある」(中国語の“有”)がほとんど使用されていないことである。BCCWJ で調べた結果、「準備」と「がある」との共起が極めて少ないことがわかった。これにより、表 3 に示した CLJ が「準備がある」(中国語に翻訳すると“有准备”となる)を多用しているのは L1 からの干渉が存在する可能性があることが確認された。

2 点目は、「準備」という動作の対象を表現する際に、日本語は中国語よりも特定の人間活動に関連する名詞との共起が多いことである。中国語の場合、「准备＋名詞」というパタンにおいて、「资料(資料)・见面礼(プレゼント)・纸和笔(紙とペン)・东西(もの)」などのような具体的な事物に関わる名詞が多い。これは CLJ が「名詞＋ヲ＋準備スル」を過剰に使用している原因ではないかと考えられる。

3 点目は、中国語の“准备”は、日本語の「準備」と対応する以外にも、助動詞としての用法が存在することである。たとえば、「准备(動)＋名詞」の場合、“准备”は「準備」というよりは、発話者の意志や計画を表す「～ようと思う」や「つもりだ」という表現に近い意味を持っている。たとえば、下記の(15)の下線部を日本語に翻訳する場合、「あなたに連絡しようと思っています」となり、「あなたに連絡する準備をしています」に翻訳すると不自然に感じられるであろう。

(15)没有, 我连早饭都吃过了, <u>正准备跟你联系</u>。(LCMC, L20)

méi yǒu　wǒ　lián zǎofàn dōu chī guò le, zhèng zhǔnbèi gēn nǐ liánxì.

not have　I　 even breakfast all have eaten,　just prepare　with you contact.

以上、学習者コーパスと L1 コーパスを用いて「準備／准备」のコロケーションパタン及び共起語について考察してきた。次に、I-JAS における JNS と CLJ が使用した「確認／確認する」のコロケーションパタン及び共起語を調査し、表 6 のようにまとめた。

表 6　I-JAS における「確認」のコロケーションパタン

語	パタン	共起語	
		JNS	CLJ
確認	名詞＋ノ＋～	行き先、目的地	
	～＋格助詞＋動詞	をする	
確認スル	名詞＋ヲ＋～	行き先、状況、場所、ピクニック場、予定、中身、目的地	バスケットの中、路線、中身、場所、地図、位置、道

表 6 を見ると、「確認／確認スル」のコロケーションパタンについて、CLJ は「名詞＋ノ＋確認」と「確認＋格助詞＋動詞」の 2 パタンを使用していないことがわかった。これは、RQ3 で示唆されたように、CLJ が L1 の影響を受けて「確認」を動詞用法のみで使用することと一致している。また、「確認」を動詞として使用する場合、CLJ は JNS と同じパタンで使用しているだけではなく、パタンにおける共起名詞の意味範疇も類似している。

(16)ケンさんは地図を持って、マリさんと行く場所を確認しました。(CCT48-SW1)
(17)マリは、作ったサンドウィッチをバスケットに詰めると、地図を見て公園の場所を確認しました。(JJJ27-SW1)
(18)二人は地図で行き先の確認をしていました。(JJJ06-SW1)

(16)～(18)はいずれも地図を見てピクニックをする場所の位置を確かめる場面を描写している。JNS は、「場所を確認しました」と「行き先の確認をしていました」という 2 つのパタンで表現できるのに対し、CLJ は「場所を確認しました」しか使用していない。同じ場面を描写する際に、CLJ は JNS のように多様な表現をうまく産出できないことが明かになった。

以下、I-JAS から抽出したコロケーションパタンをもとに、L1 日本語コーパスにおける「確認」の共起語を抽出し、その意味的特徴を表 7 のようにまとめた。なお、括弧内の数字は共起頻度を示す。

表 7　L1 日本語コーパスにおける共起語

語	パタン	共起語	特徴

確認	名詞＋ノ＋～	こと(49)、内容(41)、状況(29)、入金(26)、事実(20)、車両(20)、パスワード(13)、大臣(13)、関係(13)、住所(12)	特定の状態・事実や、権限を持つ人に関連する
	～＋格助詞＋動詞	をする(439)、を行う(201)、が出来る(167)、を取る(71)、を受ける(69)、が取れる(47)、を求める(28)、を致す(27)、に行く(16)、に・と成る(15)	特定の行動の実行や、移動・変化に関連する
確認スル	名詞＋ヲ＋～	こと(778)、内容(116)、状況(76)、位置(55)、有無(47)、状態(47)、安全(44)、事実(37)、存在(33)、点(32)	特定の状態や事実に関連する

表 7 から見ると、各パタンで共起する名詞や動詞の意味的特徴が異なることが明かになった。ここで注意すべき点は、「名詞＋ノ＋確認」と「名詞＋ヲ＋確認スル」という 2 つパタンにおける共起名詞の意味的特徴はほとんど一致しているが、前者は「大臣」のような権限を持つ人を表す名詞と共起することもできる。なお、中国語のデータ量が極めて少なく、各共起語の共起頻度がほぼ 1 回しかないため、ここでは共起頻度を省略する。

表 8　L1 中国語コーパスにおける共起語

語	パタン	共起語	特徴
确认(名)	名詞＋~	价值	物事の価値に関連する
	動詞+~	予以	「確認」という行動を表す動詞
	動詞句+~	对这种能力的，对安拉的“启示”及其基本信条的	何らかの物事に対する態度に関連する
确认(動)	~+名詞	职责，所有权，使用权，主权，合法性	責任・権利に関連する
	~+動詞句	拥有主权，美元升值过速，终止和取消特别助学金，所发生的经济活动符合国家财经规章制度	何らかの事実に関連する

ここで指摘したことが 2 点ある。

1 点目は、日本語の場合、「確認」を名詞として使用する際に、抽象的な状態や事実などを表す名詞と共起しているのに対して、中国語の場合には、常に物事の価値や態度に関わる名詞・動詞句と共起していることである。

2 点目は、中国語の“确认”は動詞として使用する際の共起語の意味範疇は、日本語の「確認／確

認スル」のコロケーションパタン及び共起語の意味範疇と類似していることである。すなわち、CLJ が日本語の「確認」を使用する際に、L1 からの正の転移が生じることがあり、不適切なコロケーションが少なくなる可能性があるのではないかと考えられる。

以上、コロケーションパタンの観点からCLJの同形語使用におけるL1干渉について考察してきた。同形同義語であっても、日中両言語におけるコロケーションパタンと共起語の意味範疇にもズレが存在することが確認された。また、両言語でコロケーションパタンと共起語の意味範疇が類似する場合、正の転移が生じる可能性があることも確認された。

5. まとめ

以上で、本研究では、CLJ の過剰・過少に使用する漢語動名詞における同形語を抽出した上で、頻度・品詞別用法・コロケーションの 3 観点に注目し、多様なコーパスデータから同形同義語の使用状況の差異を調査し、以下のような知見が得られた。

まず、RQ1(過剰・過少使用漢語における同形語)について、(1)CLJ が L1 知識を生かせる同形語を過剰に使用していること、(2)作文よりも対話の方で同形語を過剰に使用していること、(3)CLJ にとって、複雑な品詞用法を持つ同形同義の漢語動名詞を習得することが最も困難であること、の 3 点を確認した。

次に、RQ2(使用頻度の差)について、(1)同形同義語であっても、日中両言語での使用頻度には違いが存在すること、(2)L1 中国語における同形同義語の使用頻度が L1 日本語より多い場合、CLJ は過剰に使用する可能性があること、(3)L1 中国語における同形同義語の使用頻度が L1 日本語より少ない場合、CLJ は過少に使用する可能性があること、の 3 点を確認した。

続いて、RQ3(品詞用法の差)について、(1)同形同義語であっても、日中両言語で品詞用法には違いが存在すること、(2)品詞パタンが両言語間で異なる場合、CLJ の L2 使用に負の転移が生じる可能性が高いこと、(3)一方、品詞パタンが両言語間でほぼ同じ場合、CLJ の L2 使用に正の転移が生じる可能性が高いこと、(4)ただし、L2 知識も同形語の品詞使用に影響を与えること、の 4 点を確認した。

最後に、RQ4(コロケーションパタンの差)について、(1)同形同義語であっても、日中両言語でコロケーションパタンと共起語には違いが存在すること、(2)L1 における同形同義語のコロケーションパタンや共起語の範囲が L2 より広い場合、CLJ が過剰に使用してしまう可能性があるのに対し、(3)L1 における同形同義語のコロケーションパタンや共起語の範囲が L2 より狭い場合、CLJ が過少に使用してしまう可能性がある、の 3 点を確認した。

以上で、過剰使用語である「準備/准备」と過少使用語である「確認/确认」をサンプル語として、日中同形同義語の基本的な用法上の差異を確認することができた。残された課題は、こうした情報をどう CLJ に提示してくのか、ということであろう。一つの方法は、コーパスから得られた情報をコンパクトにまとめた解説シートを作成し、学習者に学ばせることである。

以下は、「準備」と「確認」についての解説シートの試案である。

表 9 「準備」の解説シート

意味	〔名詞・他サ〕いざという時に備えて（起こりうる条件を予想して）同じ状況で軽く試みたり、必要な物をそろえておいたりすること。 （『新明解国語辞典』第八版） ※中国語の「准备」の意味とほぼ同等。
注意	【頻度】中国語の“准备”に比べ、日本語の「準備」は 4 割ほど少ない。 【品詞】中国語の“准备”は動詞用法>名詞用法だが、日本語の「準備」は名詞用法>動詞用法 【コロケーション】 ✧ 準備するの連体形＋名詞：準備すること、準備する必要、準備する心構え ✧ 名詞＋ヲ＋準備する：必要なものを準備する、お金を準備する、食事を準備する ✧ ～ために準備する：研究会に参加するために準備する、機会を取るために準備する ✧ 準備＋格助詞＋動詞：準備をする、準備を進める、準備を整える ✧ 名詞＋ノ＋準備：心の準備、夕食の準備、食事の準備 ✧ 動詞連体形＋準備：迎える準備、行く準備、出掛ける準備 ✧ 準備＋ノ＋名詞：準備の段階、準備の時間、準備の一環、準備の減少 ✧ 準備＋ガ＋形容詞：準備がない、準備が早い、準備が忙しい 【用法注意】中国語の“准备做某事”を表す場合、日本語で「準備する」ではなく「～ようと思う」や「つもりだ」に対応していることに注意してください。例：我准备一个人回家→1 人で家に帰ろうと思います。

表 10 「確認」の解説シート

意味	〔名詞・他サ〕確かにそうであることを認めること。 （『新明解国語辞典』第八版） ※中国語の“确认”の意味とほぼ同等。
注意	【全体頻度】中国語の“确认”に比べ、日本語の「確認」は 9 倍ほど多い 【品詞】中国語の“确认”は日本語の「確認」と同じく動詞用法>名詞用法 【コロケーション】 ✧ 名詞＋ヲ＋確認する：特定のことを確認する、内容を確認する、状況を確認する、位置を確認する、事実を確認する ✧ 名詞＋ノ＋確認：内容の確認、状況の確認、入金の確認、事実の確認 ✧ 確認＋格助詞＋動詞：確認をする、確認を行う、確認を取る、確認を受ける

今回の分析で明らかになったように、同形同義語であっても、その頻度・品詞・コロケーションが日中間で大きく食い違い場合が存在することが示された。こうした点を日本語教育に取り込み、明示的に学習者に示していくことは、豊富な漢語知識を持ちながらもうまく日本語漢語が使っていない CLJ、とくに上級の CLJ を強力に支援することになるだろう。こうした可能性については、今後の日本語教育においても広く検討されていくべきであろうと考える。

引用文献

何龍（2016）「日中同形同義語の学習における母語の影響：中国人の日本語学習者の新漢語の学習について」『JSL 漢字学習研究会誌』*8*, 33-42.

河住有希子（2005）「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』*7*,53-65.

許雪華（2014）「日中同形語の量的分析」『或問 WAKUMON』*26*,113-122.

五味政信・今村和宏・石黒圭（2006）「日中語の品詞のズレ－二字漢語の動詞性をめぐって」『一橋大学留学生センター紀要』*9*, 3-13.

陳毓敏（2002）「日本語二字漢字語彙とそれに対応する中国語二字漢字語彙は同じか。―台湾及び中国の中国語との比較」『言語文化と日本語教育』（お茶の水女子大学日本言語文化学研究会）*24*, 40-53.

陳毓敏（2003）「中国語を母語とする日本語学習者の漢語習得について－同義語・類義語・異義語・脱落語の 4 タイプからの検討－」『平成 14 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』社団法人日本語教育学会.

馮元（2019）「日本語におけるナ形容詞とそれに対応する同形中国語との差異：「主要」をめぐって」『筑波日本語研究』*23*, 26-36.

文化庁（1978）『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局.

松下達彦・陳夢夏・王雪竹・陳林柯（2020）「日中対照漢字語データベースの開発と応用」『日本語教育』*177*, 62-76.

山田忠雄・倉持保男・上野善道・山田明雄・井島正博・笹原宏之（2020）『新明解国語辞典　第八版（LogoVista 版）』三省堂.

李愛華（2005）「中国人日本語学習者の漢語の意味習得－日中同形語を主として－」筑波大学大学院地域研究研究科平成 16 年度修士論文.

劉楚心（2021）「中国人日本語学習者による日中同形語の意味習得 ： 非漢字圏日本語学習者との比較を通して」『東アジア国際言語研究 = International East Asian language research』 *2*, 45-53.